【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成23年1月20日(2011.1.20)

【公開番号】特開2009-163936(P2009-163936A)
【公開日】平成21年7月23日(2009.7.23)
【年通号数】公開・登録公報2009-029
【出願番号】特願2007-340513(P2007-340513)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｍ　10/0565　(2010.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｍ　10/00　　１１０

【手続補正書】
【提出日】平成22年11月30日(2010.11.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４４】
上記表１～３から、非水溶媒にメチルトリメチルアセテート（ＭＴＭＡ）を含み、モノマーとしてトリプロピレングリコールジアクリレート（ＰＡＧ２）を用いた実施例１、２、５～８は、限界電流値が１．６～２．５Ｉｔと、非水溶媒にメチルトリメチルアセテートを含まない比較例１～１０の０．６～１．２Ｉｔ、モノマーにアルキレングリコールジアクリレートを含まない比較例１１～２４の０．７～１．２Ｉｔよりも優れていることがわかる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４７】
また、非水溶媒にメチルトリメチルアセテート（ＭＴＭＡ）を含み、アルキレングリコールジアクリレート及び／又はＮ，Ｎ－ジアルキルアクリルアミドを用いた実施例１～３、５、６、１２、１３は、サイクル特性が７６～８２％と、非水溶媒にメチルトリメチルアセテートを含まない比較例１～１０の６１～８０％、モノマーにＮ，Ｎ－ジアルキルアクリルアミドを含まない比較例１１～２４の６１～８１％とほぼ同等であることがわかる。このことから、アルキレングリコールジアクリレート及び／又はＮ，Ｎ－ジアルキルアクリルアミドを重合してなるポリマーは、電池性能に悪影響を及ぼさないことがわかる。